

件名	埼玉県学力・学習状況調査の結果について
提出理由	令和2年6月～7月に実施した埼玉県学力・学習状況調査の結果について、別紙のとおり報告します。
概要	<p>1 調査の目的・特徴</p> <p>(1) 目的</p> <p>(2) 特徴</p> <p>2 調査の概要</p> <p>(1) 調査開始 平成27年度から</p> <p>(2) 実施日 令和2年6月1日(月)～7月16日(木)</p> <p>(3) 調査対象 県内の公立小・中学校等(さいたま市を除く。)に在籍する小学校第4学年から中学校第3学年までの児童生徒</p> <p>(4) 実施市町村 56市町村/全62市町村中</p> <p>(5) 実施校数 893校/全1,058校中</p> <p>(6) 実施人数 234,037人/約298,100人中</p> <p>(7) 調査事項</p> <p>ア 児童生徒に対する調査</p> <p>イ 学校に対する質問紙調査</p> <p>ウ 市町村教育委員会に対する質問紙調査</p> <p>3 「学力のレベル」と「学力の伸び」について</p> <p>(1) 「学力のレベル」の考え方</p> <p>(2) 「学力の伸び」の考え方</p> <p>4 調査結果</p> <p>(1) 「学力のレベル」の経年変化について</p> <p>(2) 「学力が伸びた児童生徒の割合」について</p> <p>(3) 児童生徒質問紙調査による分析</p> <p>5 調査結果を受けた今後の対応</p> <p>(1) 市町村に対する総合的な支援と重点的な支援</p> <p>(2) 「学校再開後の学習への取組状況等の調査」等とのクロス分析</p>

(義務教育指導課)

令和2年度 埼玉県学力・学習状況調査結果概要

1 調査の目的・特徴

目的 本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

特徴 「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という視点に「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか(学力の経年変化)」という視点を加えている。
「学力の伸び」が把握できる。

2 調査の概要

調査開始 平成27年度から(毎年度実施で今年度6回目)

実施日 令和2年6月1日(月)～7月16日(木)

例年は4月上旬に同一日を実施

調査対象 県内の公立小・中学校等(さいたま市を除く)に在籍する小学校第4学年から中学校第3学年までの児童生徒

新型コロナウイルス感染症対策のための小・中学校等の一斉臨時休業の影響を考慮し、全県一斉では実施せず、調査への参加を希望した市町村のみで実施

実施市町村 56市町村/全62市町村中

実施校数 893校/全1,058校中

小学校 587校/全702校中

中学校 305校/全355校中

義務教育学校 1校/全1校中

実施人数 234,037人/約298,100人中

小学校 119,977人/約151,000人中

中学校 113,943人/約147,000人中

義務教育学校 117人

調査事項

ア 児童生徒に対する調査

(7) 教科に関する調査

対象学年	教科
小学校第4学年	国語 算数
小学校第5学年	国語 算数
小学校第6学年	国語 算数
中学校第1学年	国語 数学
中学校第2学年	国語 数学 英語
中学校第3学年	国語 数学 英語

(1) 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

イ 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組等に関する調査

ウ 市町村教育委員会に対する質問紙調査

市町村教育委員会における指導方法に関する取組や教育条件の整備状況に関する調査

3 「学力のレベル」と「学力の伸び」について

本調査では、小学校第4学年から中学校第3学年までの全ての問題に難易度を設定することで、学力のレベルを測定している。

「学力のレベル」の考え方

正答や誤答の状況、問題の難易度などを基に「どのくらい難しい問題を解く力があるか。」を学力のレベルで表している。レベルが上がるほど、難易度の高い問題を解く力がある。

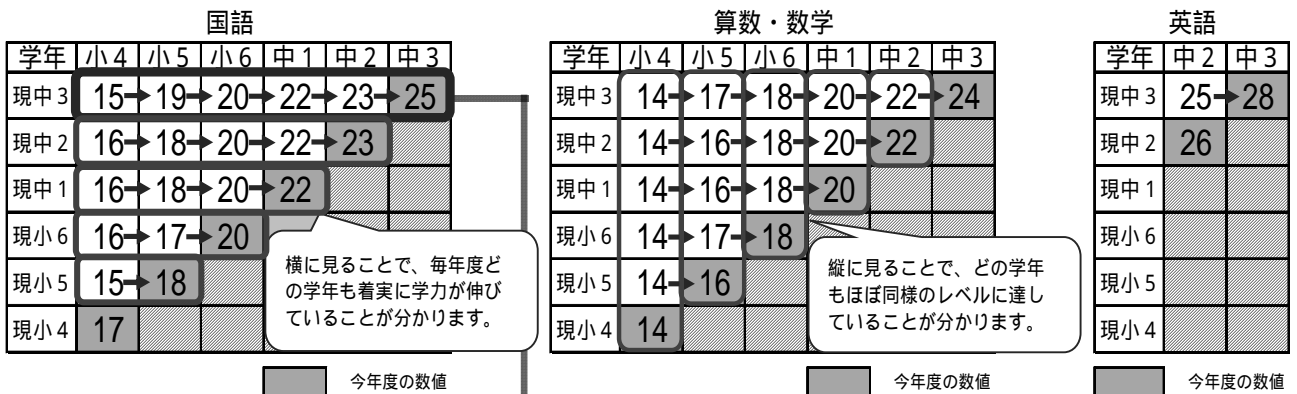
「学力の伸び」の考え方

同一児童生徒の年度間の「学力のレベル」の差を「学力の伸び」と捉える。

4 調査結果

「学力のレベル」の経年変化について

全ての学年・教科で、学年が上がるとともに着実な「学力の伸び」が見られる。

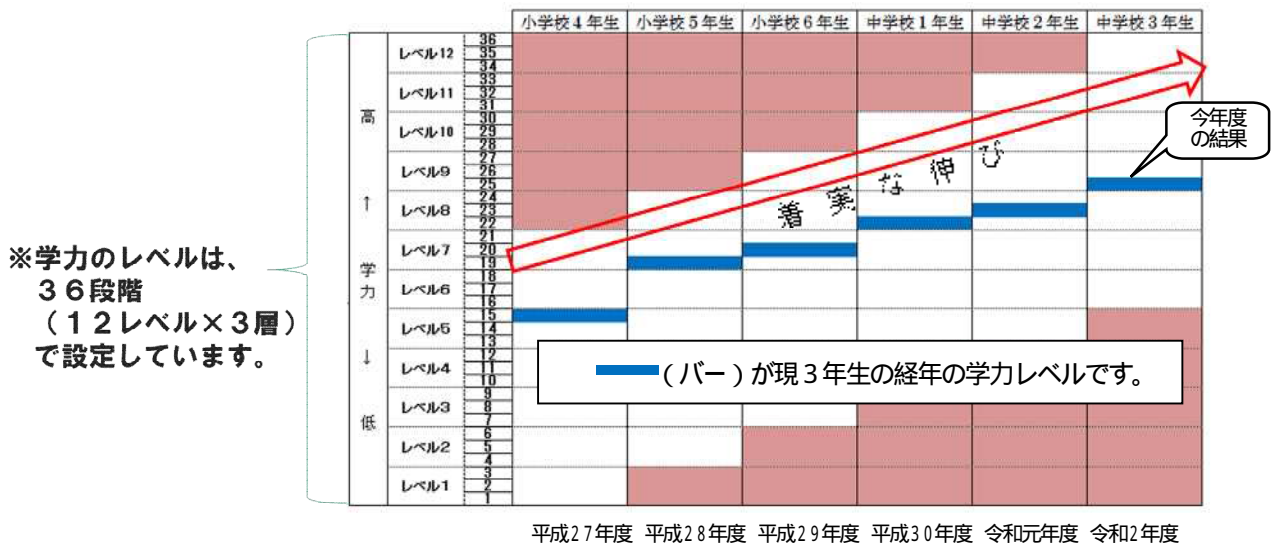


各学年の学力レベルは下記の範囲内で設定

小学校第4学年	小学校第5学年	小学校第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年
1 ~ 21	4 ~ 24	7 ~ 27	10 ~ 30	13 ~ 33	16 ~ 36

図に表すと...

現中学校3年生「国語の学力レベル」の経年変化



「学力が伸びた児童生徒の割合」について
〔結果〕

5年間の学力が伸びた児童生徒の割合を平均すると、
 中学校第1学年から第2学年にかけて伸びる生徒の割合が少ない。()
 中学校第2学年から第3学年にかけて伸びる生徒が増加する。()



R2調査については、56 / 62市町村での実施

〔考察〕

- ・算数・数学も同様の傾向
- ・昨年度も同様の傾向
- ・例えば、小中連携をより一層推進していくなど、接続期における学習内容の変化に対する丁寧な手立てが必要

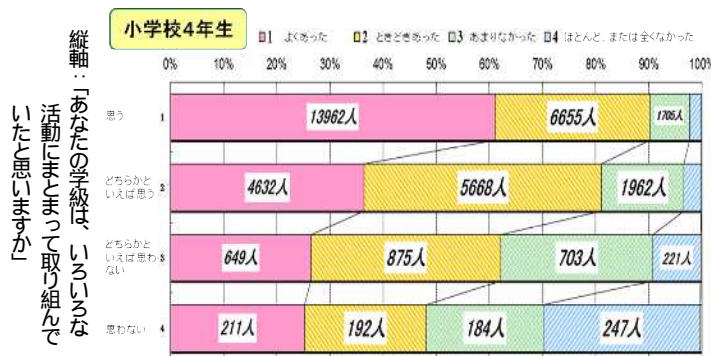
児童生徒質問紙調査による分析

ア 質問項目「あなたの学級は、いろいろな活動にまともって取り組んでいたと思いますか」と「授業で課題を解決するときに、みんなでいろいろな考えを発表することがあったか」の回答状況をクロス集計

〔結果〕

「みんなで協力して活動しようといった学級のよい雰囲気」と「授業中にみんなでいろいろな考えを発表し合って課題を解決していこうとする姿勢」に強い相関
 全ての学年で同様の傾向

横軸：「授業で課題を解決するときに、みんなでいろいろな考えを発表することがあったか」



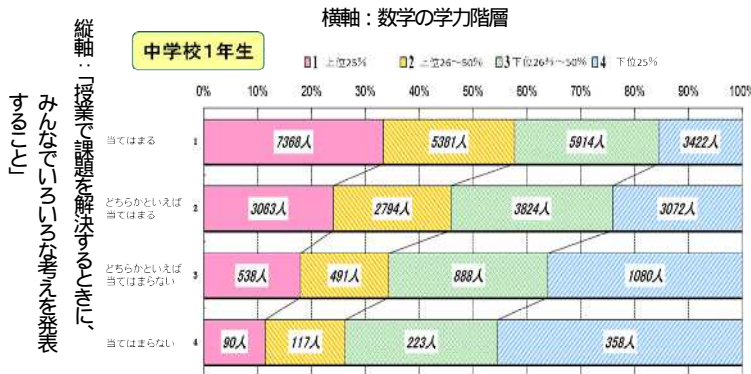
〔考察〕

- ・対話的な学びを活性化するために、学校行事などに協働して取り組むなど、まとまりのある学級集団づくりが重要
- ・令和元年度のデータ分析結果でも同様の傾向

イ 質問項目「授業で課題を解決するときに、みんなでいろいろな考えを発表することがあったか」と、教科の調査結果をクロス集計

〔結果〕

質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の方が、学力が高い傾向
 全ての学年・教科で同様の傾向



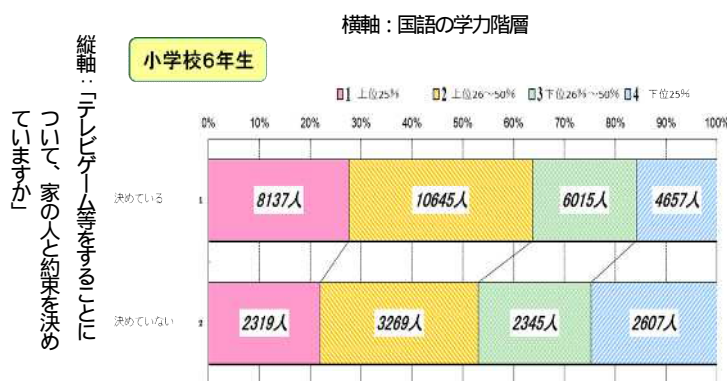
〔考察〕

- ・課題解決の場面で、グループや学級全体で多様な考えを共有したり、議論したりすることが、学力向上に有効である可能性があり、重要
- ・令和元年度のデータ分析結果でも同様の傾向

ウ 質問項目「テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲームやスマートフォンを使ったゲームも入ります）をすることについて、家の人と約束を決めていますか」と教科の調査結果をクロス集計

〔結果〕

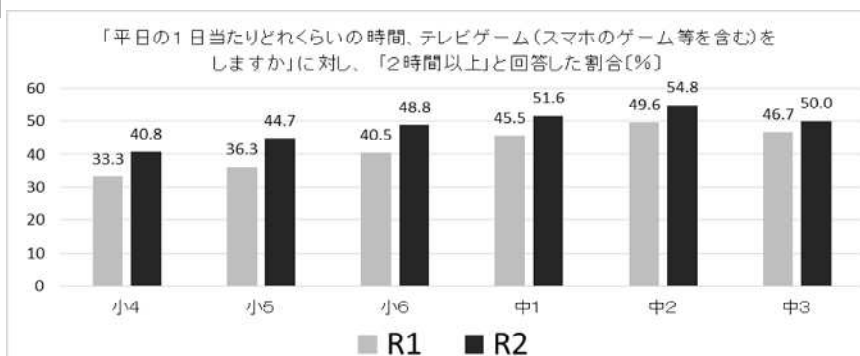
質問に対し、「家の人と約束を決めている」と回答した児童の方が、学力が高い傾向
 全ての学年・教科で同様の傾向



〔考察〕

- ・保護者が子供にゲーム機などを与える際、一緒に話し合うなど、子供が自覚できるような一定の約束を決めることが、学力向上に有効である可能性があり、重要
- ・令和元年度のデータ分析結果でも同様の傾向

〔参考〕



5 調査結果を受けた今後の対応

市町村に対する総合的な支援と重点的な支援

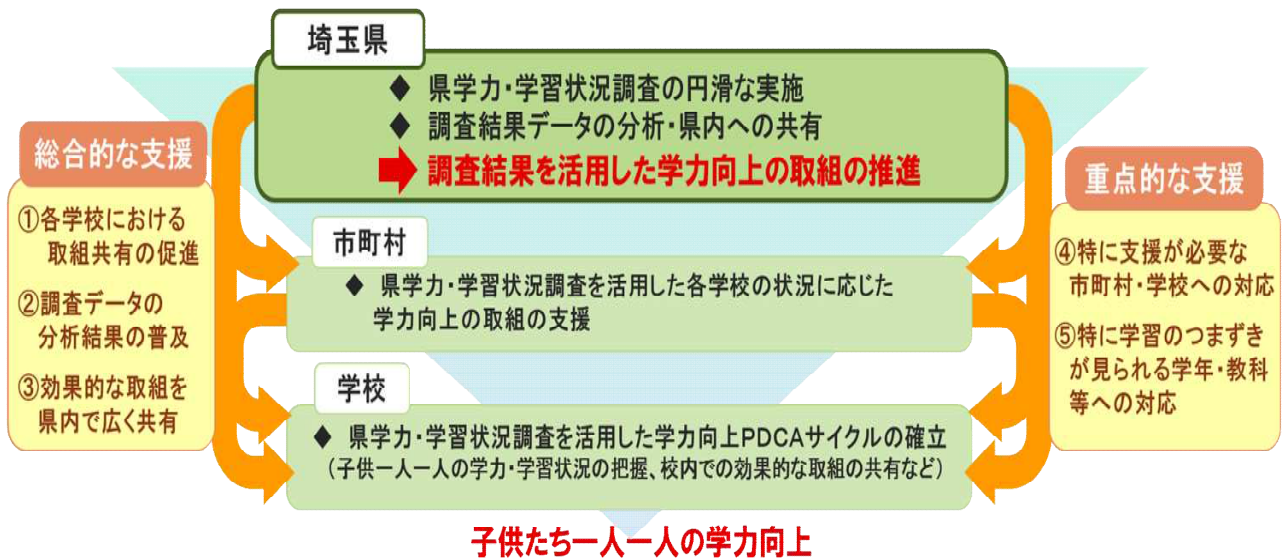
<基本方針：市町村・学校との一層の連携・協働による重層的な支援>

【総合的な支援】

県学力・学習状況調査のデータを十分に活用し、学力を伸ばしている良い取組を発掘・共有する文化やネットワークを各市町村・各学校に構築する。

【重点的な支援】

伸び悩みを抱える市町村・学校を徹底的に支援することで、子供たちの学力向上を図る。



「学校再開後の学習への取組状況等の調査」等とのクロス分析
研究機関と連携し、本調査と過日実施した「学校再開後の学習への取組状況等の調査」等の結果をクロス分析。

新型コロナウイルス感染症対応による学校教育への影響をデータに基づき分析し、児童生徒の学習保障に向けた効果的な取組を今後の施策に生かしていく。

